

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成23年度 業務実績評価書

平成24年 8月

金沢市公立大学法人評価委員会

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の4段階の区分により、その進捗状況を判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみを記載

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については中項目）ごとに、以下の5段階の区分により進捗状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

- ① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
- ② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
- ③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
- ④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
- ⑤ 財務内容の改善に関する目標
- ⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
- ⑦ その他業務運営に関する重要目標

【評価基準】

評価区分	評価内容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
	※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注) 目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

Ⅱ 評価結果

□ 全体評価

年度計画に定めたほとんどの項目は着実に実施されており、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

公立大学法人への移行後2年目となった平成23年度は、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

以下に、大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 教育の質の向上に関しては、全教員が参画し、多様な芸術分野を学べる選択科目を平成24年度カリキュラムへ多数取り入れたほか、海外を目指す学生のための「イングリッシュヘルプセンター」の開設や、個々の学生の生活や就職に対する支援体制を強化するなど、学生の育成のために全学をあげて取り組んだこと。
- ・ 研究の質の向上に関しては、昨年度に引き続き「平成の百工比照」の収集作成、故柳宗理氏の業績研究、アジア諸国との教育・研究交流等に取り組んだほか、特色ある研究活動を積極的に推進し、文部科学省科学研究費補助金の公募へ13件の申請を行ったこと。
- ・ 社会連携に関しては、金沢市立病院との連携事業である「ホスピタリティ・アート・プロジェクト」や、大学の情報発信拠点として石引商店街に整備した「アートベース石引」の活用等、幅広く社会と連携することで実践的な教育を推進するとともに、これらの教育研究成果を社会に還元していること。
- ・ その他業務運営に関しては、同窓会と共同開催した「東京銀座・金沢・ニューヨーク大展示会」では全体で86,882名の来場者があり、また、同展示会等の開催に際し、連携協定企業から助成金の支援を受けるなど、大学支援組織等との連携が強化されたこと。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 58 の小項目のうち、IV評価（年度計画を上回って実施している）が 2 項目、III評価（年度計画を十分に実施している）が 55 項目、II 評価（年度計画を十分には実施していない）が 1 項目となっており、これらの状況を総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 産学・地域連携事業のうち、「珪藻土デザイン研究」や「アートベース石引」の運営等、教育プログラムとして有効な事業を推進し、実践的な教育を実施した。
- ・ 多様なメディアを用いた複合的な表現領域の強化を図るため、専攻を問わず学生が自由に選択できる科目として、23 科目（造形表現工房 I～IV）の新設を決定した。
- ・ 大学院教育において、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を養成するため、複合的な表現を学ぶ「映像メディア演習」等 5 科目の新設を決定した。
- ・ 大学院教育に携わる教員の資質を担保するため、大学院教員指導資格審査基準及び資格審査実施計画を策定した。
- ・ 同窓会の支援事業である「けやき賞」の贈呈により、学生顕彰を行ったほか、社会福祉法人金沢市社会福祉協議会の奨学金制度の導入を決定した。
- ・ 特に美術科及び工芸科の学生に対し、専攻間・教員間の連携により、就職指導に関しての全学的な指導強化に努めたほか、キャリアカウンセラーによる個別就職相談を試行した。

○ 改善が望まれる点

- ・ 学生の質を保証するために、年間修得単位の上限を設定し、早期に適用することが望まれる。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 14 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 2 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 12 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、故柳宗理氏の業績の調査研究を行い、報告書としてまとめたほか、金沢大学理工学研究領域との交流ラポツアーを実施するなど、新たな分野での共同研究の検討に着手した。
- ・ 芸術の振興・普及を促進するため、教員の研究成果を大学紀要等に掲載し、中国清華大学美術学院や韓国同徳女子大学校との交流展で教員作品を公開した。
- ・ 研究の質を向上させるため、研究活動と成果に対して、若手や意欲のある教員等を積極的に評価するとともに、外部資金の獲得につながる研究を奨励した。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 19 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 5 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 14 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

○ 特筆すべき点

- ・ 金沢市との協働事業である「平成の百工比照」収集事業やクリエイティブ・ワルツ事業に積極的に応じたほか、金沢市立小学校の図画工作授業へ学生を派遣し、市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献した。
- ・ 昨年度に引き続き、金沢市立病院との連携事業である「ホスピタリティ・アート・プロジェクト」を実施したほか、アートと先端技術の交流を図るため、北陸先端科学技術大学院大学と意見交換を行うなど、他大学や研究機関等との連携を強化した。
- ・ 国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、ヨーロッパ、アジア、アメリカの各大学との間で教員や学生の交流を行ったほか、アジア工芸教育交換プログラムとしてミャンマー、台湾及びラオスの現況調査等を実施した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の9の小項目全てがⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

○ 特筆すべき点

- ・ 大学運営や教育研究活動を効果的かつ効率的に推進するため、事務系職員の法人採用条件を決定し、学芸員1名を公募したほか、教職課程の教員1名の任期付再雇用を実施した。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の 11 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 2 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 9 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 財政基盤の強化を図るため、文部科学省科学研究費補助金の公募に 13 件の申請を行った。また、インターネットによる物品調達や、工房施設建設工事においては発注方法を工夫するなど、経費の節減に努めた。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の 9 の小項目全てがⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 大学ホームページ上にナビゲーションページを設定して、「教育研究活動に関する情報」を判りやすく公開した。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 17 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 1 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 16 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 卒業生や同窓会と連携して、「東京銀座・金沢・ニューヨーク大展覧会」を開催し、また、同展覧会等の開催に際して連携協定企業から助成金の支援を受けるなど、大学支援組織等との連携を強化した。